

伝記を読み、自分の生き方について考えよう

中心学習材「やなせたかし～アンパンマンの勇気」（光村図書5年）

日 時：令和4年11月25日（金）4校時

授業者：石井 佳織

児 童：5年1組31名

1 単元構想

（1）児童の実態

- ・これまでの「なまえつけてよ」や「たずねびと」の学習を通して、物語の描写から登場人物の心情や関係の変化を考えることができるようになってきている。
- ・個の読みを全体に広げることで、多様な読みの捉えを交流し、自分の考えを広げることができるようになってきている。
- ・積極的に発言する児童が多い一方で、交流しても考えを広げることができない児童も数名いる。
- ・考えを形成する段階では、読み取ったことをもとに自分の経験とつなげてまとめることができる児童もいるが、考えたことを自分の言葉で表現することが難しい児童も数名いる。

（2）国語科の目標

＜指導事項の系統＞（既習事項）

- ・登場人物の気持ちが想像できる言葉に着目し、登場人物の変化と出来事の間を捉える。（4年）
- ・文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつ。（4年）
- ・文章を読んで考えたことを共有し、感じ方の違いに気付く。（4年）
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。（5年）

＜付けたい力＞（重点指導事項）

- 〔知〕文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解する力（（1）文や文章 カ）
- 〔思〕文章を読んで理解したことに基いて、既知の知識や経験とつないで自分の考えをまとめることができる力（C（1）考えの形成 オ）
文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる力（C（1）共有 カ）
- 〔学〕進んで伝記を読み、人物の生き方に自分を重ねて考えたことをもとに、自分の生き方について考えを広げようとする力

（3）主となる言語活動とその特徴

言語活動 伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する活動

- 特徴** ①行動や会話、心情を基軸にした文学的な描写と、事実の説明を基軸にした説明的な描写の要素を基に人物像とその生き方や考え方を筆者がどのように解釈（評価）しているかを捉え、自分の考えと重ねながら読むことができる。
- ②友達と互いの考えを交流し、自分の生き方についての考えを深めたり広げたりすることができる。

（4）深い学びを実現するための手立て

①働かせる「言葉による見方・考え方」

- ・筆者がどんな出来事をどんな言葉で取り上げ、人物の生き方をどのように価値付けているか、筆者の意図を読む。
- ・やなせたかしの行動や会話、心情などの事実に基づく叙述と、筆者の解釈（評価）の叙述を関連付けながらやなせたかしの人物像について自分の生き方と重ねて考える。

②主に発揮させたい「学びを推進する力」（汎用的な資質・能力）

受容・共感の力

《力の具体》 筆者の「やなせたかし」の生き方への解釈（評価）を共感的に受け止めながら、それを自分の生き方・考え方と重ねて読むことができる力

③具体的方策

- 方策① 目的をもった主体的な読みができるように「偉人から学び生きるヒントを考えよう」という課題を設定する。
- 方策② 伝記の読み方を身に付けることができるように、人生像（業績）と人物像（考え方）を叙述をもとに読む。
- 方策③ 人物の生き方から考えたことを書くことができるように、影響を受けたところ、共感できるところ、これからの生きるヒントを視点に自分と重ねて読む。
- 方策④ どの偉人にも偉業を成し遂げるために貫かれた思いや願いがあることに気付くことができるように、「やなせたかし」の読みの視点を生かして並行読書を行い、自分の考えをまとめる活動を位置付ける。

2 単元の学習計画

(1) 単元の評価規準

- [知] 文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解している。 ((1) 文や文章力)
- [思] ①「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，既存の知識や経験とつないで自分の考えをまとめている。 (C (1) 考えの形成力)
- ②「読むこと」において，文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げている。 (C (1) 共有力)
- [主] 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ，学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。

(2) 指導と評価の計画 (7 時間)

次	時	○学習活動 ・ 学習内容	指導上の留意点 ＜主に発揮させる「学びを推進する力」＞	評価規準・ 評価方法
一	1	○学習計画を立てる。 ・「やなせたかし」を読み，初発の感想を交流する。 ・二次ではたかしの生き方から学び「自分の生きるヒント」となる部分を考えるという視点をもつ。 ・三次で自分が選んだ偉人の生き方から学んだこと書くという単元の見通しを立てる。 偉人の生き方から学び，自分の生きるヒントを考えよう。	・伝記は，物語のような文学的な描写と事実の説明とで構成されているという特徴に気付くことができるようにする。 ・初発の感想を交流することで，二次での読みの視点（影響を受けたところ/共感できるところ/生きるヒントとなること）を明らかにする。 ・伝記を読んで教師がまとめた文章を示すことで，三次では自分が選んだ偉人の生き方から考えたことを書く活動の具体をイメージできるようにする。 ＜課題を設定する力＞ ・自分が選んだ伝記の並行読書を始める。	
二	2	○伝記に取り上げられている出来事を確かめ，たかしの生き方について考える。 ・様々な転機が「たかし」に与えた影響と，その後の結び付きについて考える。 「たかし」の人生の分かれ道はどこだったのでしょうか。	・「たかし」の人生の転機を考えることで，様々な人生の選択がアンパンマンを生み出したことに気付くことができるようにする。 ・様々な業績を中心に読むことで，「たかし」の人生像を捉えるようにする。 ・様々な人生の選択と，その意味を考えることで，それらが「たかし」の人生を形成していったことに気付くことができるようにする。 ＜情緒の力＞	
	3 本 時	○筆者がたかしの功績とはどんなことだと捉えているかを考える。 ・筆者の「やなせたかし」像（人物像）を考える。 梯さんは「たかし」をどんな人物だと捉えているのだろう。	・筆者が「たかし」の生き方や考え方をどのように解釈（評価）しているかを考えることで，筆者がどんなところに感銘を受けて「たかし」の人柄を捉えているかが分かるようにする。 ・筆者がどんな言葉で「たかし」の生き方を解釈（評価）しているかに着目して人物像を捉えるようにする。 ・筆者が「やなせたかし」の伝記を通して読者に伝えたかったことを共感的に受け止めることができるようにする。 ＜受容・共感の力＞	[知識・技能] ワークシート・発言 文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解しているかの確認
	4	○たかしの生き方についてまとめる。 ・筆者の人物像に対する自分の考えをまとめる。 「たかし」の生き方から自分が考えたことをまとめよう。	・「たかし」の人生の様々な出来事を振り返り，「たかし」が歩んできた人生を俯瞰して考えることを通して，感銘を受けたところ（影響を受けたところ/共感できるところ/生きる道しるべとなること）を基に自分の考えをまとめる。 ＜表現する力＞	[思考・判断・表現 ①] ワークシート・発言 文章を読んで理解したことに基づいて既存の知識や経験とつないで自分の考えをまとめているかの確認

	5	○互いの考えを交流し、自分の考え方を広げる。 互いの考えを交流し、自分の考えを広げよう。	・友達と考えを交流することで、互いの考えのよさを知ることができるようにする。 ・人によって着目するところには違いがあることを理解することで、考えの広がりを実感することができるようにする。 〈メタ認知する力〉	[思考・判断・表現②] ノート・発言 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認
三	6	○自分が選んだ伝記について紹介文を書く。 ・自分が選んだ偉人の生き方について、感銘を受けたところを絞ってまとめる。 自分が選んだ偉人から学んだことを書こう。	・自分が選んだ伝記について、自分が感銘を受けた生き方や考え方について絞って自分の考えを書く（200字）ことで、その偉人に対する自分の考えを明確にできるようにする。 〈情緒の力〉 〈受容・共感の力〉 〈表現する力〉	[思考・判断・表現②] ノート・発言 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認
	7	○互いの考えを交流し、自分の考えを広げる。 互いの考えを交流し、自分の考えを広げよう。	・友達と考えを交流し、互いの考えのよさを知ること、自分の考えの広がりを実感することができるようにする。 〈メタ認知する力〉	[主体的に学習に取り組む度] ワークシート・発言 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている様子の確認

3 本時の指導（3／7時）

（1）ねらい

筆者が「やなせたかし」をどんな人物であると解釈（評価）しているのかに着目しながら、やなせたかしの人物像を明らかにすることができる。

（2）展開

学習活動 ・ 学習内容 （◎主発問）	指導の手立て 〈発揮させる「学びを推進する力」〉（※評価）
1 前時の学習を想起する。 ・前時にまとめた「たかし」の業績（人生像）を確認し、それに対する筆者の解釈に迫ることを確認し、課題意識を共有する。 2 学習課題を確認する。 梯さんは、「たかし」をどんな人物と捉えているのだろう。	・前時までに「たかし」の行動や会話から見てきた業績を確認し、筆者は「たかし」のどんな生き方に影響を受け、読者に伝えようとしたのか、という視点で読んでいくことを確認する。 ・筆者の梯さんは「たかし」が編集長を務めた雑誌の編集者で、約10年間一緒に働いたことを知らせる。
3 筆者の「たかし像」（人物像）を明らかにする。 （1） 自分の考えを書く。 ・筆者は「たかし」をどんな人物ととらえているのか、またそう考えた根拠となる叙述を書く。 （例） ・本当の勇気を伝えることを貫いた人 ・本当の正義を見いだした人 ・人のために尽くす人 ・命を一番大切に考える人 →そう思う根拠となる叙述を記述	・筆者の「たかし像」を俯瞰して捉え、その根拠となる叙述をワークシートに記述するようにする。 〈受容・共感の力〉 ・筆者が「たかし」の生き方や考え方をどのように評価していたかを考えるために、どんな出来事をどんな言葉で表現しているのか、行動や会話文に着目して、人物像を捉えることができるようにする。

(2) 課題を解決する。 ・友達と互いの考えを交流し、相違点を明らかにする。 ◎「たかし」が貫いた思い（考え方）は何でしょう。	・友達と考えを比較することで、どの言葉に着目したのか、互いの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ・人物を表す言葉の表現は多様であっても、その根拠となる叙述には共通点があることに気付くことで、「たかし」の生き方や考え方に対する筆者の思い（考え方）を板書に位置付ける。 〈受容・共感の力〉 ※筆者が「やなせたかし」をどんな人物であると解釈（評価）しているのか、筆者の人物像を明らかにすることができる。（ノート、発言）
4 学習のまとめをする。 ・筆者の「たかし」の生き方についての解釈（評価）をまとめる。 梯さんは、「やなせたかし」を（本当の正義を貫いた人）と捉えていると思う。わけは、（戦争での経験をもとに、困っている人を助けたいという本当の勇氣こそ正義であるという思いが伝わったから。）	・「たかし」が貫いてきた思いを問うことで、筆者が「たかし」の生き方をどのように解釈（評価）しているのかをまとめることができるようにする。 ・信念をもってアンパンマンを書き続けた「たかし」を尊敬する筆者の解釈（評価）をまとめることができるようにする。 ・友達との交流も踏まえて、本時のまとめを書くようにする。
6 学習を振り返る。 ・人生像と人物像を読んでみて、分かったことや気付いたことを書く。	・前時の読みと比較することで、視点を変えることによって人物の見え方が深まったり広がったりすることに気付くことができるようにする。 ・自分が選んだ伝記も同じような視点で読むように促し、三次へつなげる。 ※前時の読みと比較することで、「たかし」に対する捉えの変容を自覚し、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。（ノート、発言）

(3) 評価

評価規準 《評価方法》	筆者が「やなせたかし」をどんな人物であると解釈（評価）しているのかに着目しながら、やなせたかしの人物像を明らかにすることができる。《記述・発言》
見取りの要素と 表現例	〔見取りの要素〕 ・筆者が「たかし」のどんな出来事を取り上げて評価しているかを捉えることができたか。 ① 「たかし」を俯瞰してとらえた人物像を書く。 ② ①のように考えた根拠となる叙述をもとに、考えを書く。 【例１】 ・梯さんは、「やなせたかし」を（本当の正義を貫いた人）と捉えていると思う。わけは、（戦争での経験をもとに、困っている人を助けたいという本当の勇気こそ正義であるという思いが伝わったから。） 【例２】 ・梯さんは、「やなせたかし」を（本当の正義を生み出した人）と捉えていると思う。わけは、（戦争で弟が死んだり食べるものがなくて苦しんだりした経験から、困っている人を自分を犠牲にしてでも助けようとする本当の正義（アンパンマン）を生み出したから。
個に応じた支援	・筆者はなぜ「やなせたかし」を伝記にしたいと思ったのか、筆者の気持ちを想像しながら考えるように支援する。 ・何回も出てくる言葉に着目するように支援する。

4 指導を終えて（省察）

（１）単元における学習指導の実際

本単元では、主に、伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する力をつけるために、目的に沿って以下の４つの手立てを講じた。授業の実際の様子から省察する。

① 目的をもった主体的な読みができるように「偉人の教えから学び生きるヒントを考えよう」という課題を設定する。（第１時）

- ・単元の計画を立てる場面において、初発の感想を基に考えたいこと、また解決するために使う力（思考）を児童の言葉から明らかにした。教室にも学びの様子を掲示して前時を想起したり、次時を見通したりする際に「学びを推進力」を意識して学習を進めた。
- ・第１次の単元を見通す場面において、「偉人の教えから学び、自分の生きるヒントを考えよう」という単元の大きな課題を設定することにより、筆者の「やなせたかし」の生き方への解釈（評価）を共感的に受け止める児童の姿が見られた。また、やなせたかしの生き方から学んだことを自分の生活にも生かそうとする視点をもって読み進めた。

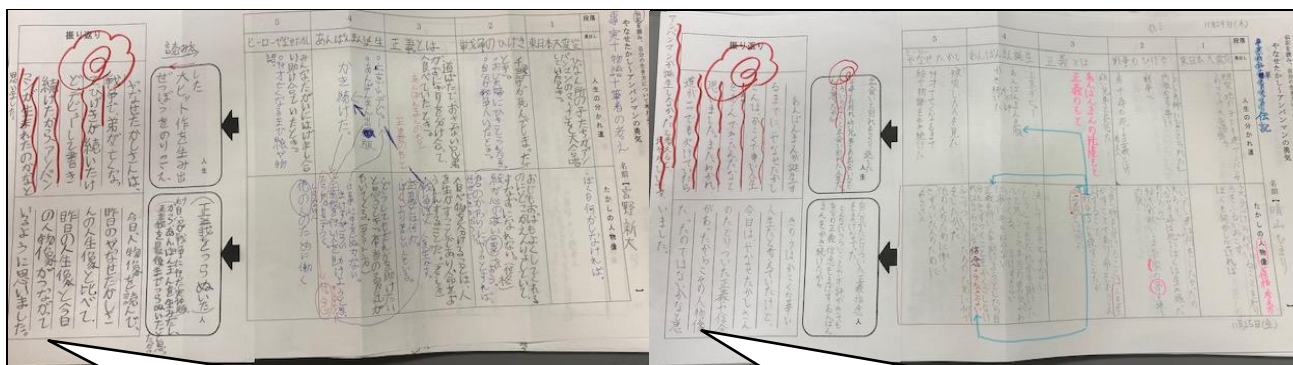


事前のアンケートでは、学級の約半数が「伝記をあまり読まない/ほとんど読まない」という結果だった。理由は、どの人がどんなことをした人か分からないから興味がわからないとの理由が多かった。

【どの場面でどんな「学びを推進する力」を使うのかをまとめた掲示】

② 伝記の読み方を身に付けることができるように、人生像（業績）と人物像（考え方）について、叙述をもとに読む。第２～３時

- ・人生像（業績）と人物像（考え方）を読み分けることで、業績とそこに至った思いや考え方のつながりに気付く児童の姿が多く見られた。
- ・全体での話し合いの場面において、筆者がどんな出来事を取り上げ、やなせたかしの生き方を価値付けているか、「正義」や「信念」といった言葉を中心に読み進めた。



【人物像】
正義を貫いた人
【振り返り】

人物像を読んで、昨日のやなせたかしさんの人生像と比べて、昨日と人生像と今日の人物像がつながっているように思いました。

【人物像】
自分がたどりついた信念・正義をまげなかった人
【振り返り】

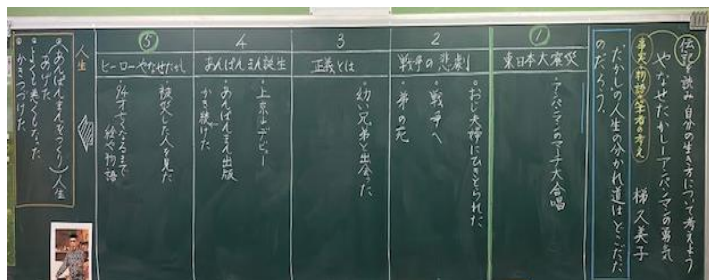
昨日は過酷な辛い人生だと考えていたけど、今日はやなせたかしさんのたどりついた正義や信念があったからこそこの人物像だったのではないかと思います。

【事実（人生像）と心情（人物像）を整理して関連付けながらまとめた児童のワークシート】

- ・本時の話し合いの場面において、本教材の筆者である梯久美子さんと他の筆者の事実の取り上げ方の違いを比較する発問を投じた。（「やなせたかし」の伝記を書いた3人の筆者の中で、食べ物を分け合う幼い兄弟との出会いを取り上げているのは、梯さんだけだった。それはなぜか。」）この発問が、筆者の「やなせたかし」に対する思いや考え方の解釈（評価）に気付くきっかけとなった。



第1時（初発の感想→単元の課題を設定する）



第2時（事実・業績を読む→人生像を明らかにする）



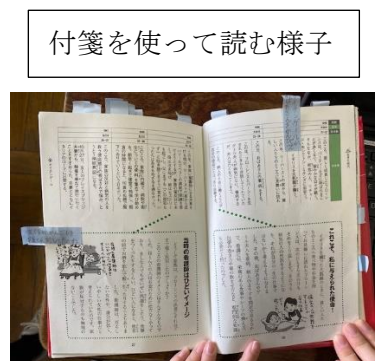
第2時で読んだ人生像（業績）を上段に、本時の人物像（考え方）を下段にしてまとめた。横の関係（思いのつながり）と上下の関係（出来事とのつながり）を関連付けて読んだ。

第3時（心情／考え方を読む→人物像を明らかにする）※本時

【筆者の解釈（評価）を共感的に捉えることができるよう段階的に読み進めた板書】

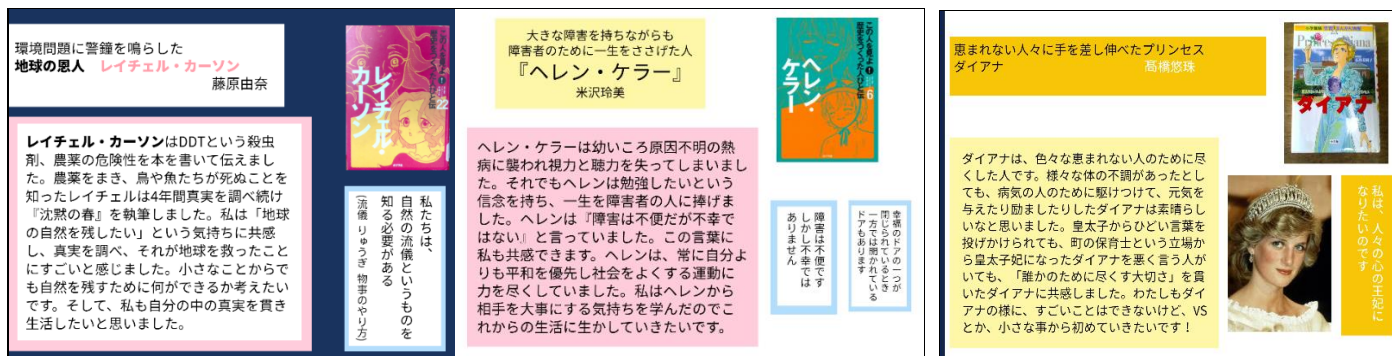
- ③人物の生き方から考えたことを書くことができるように、影響を受けたところ、共感できるところ、これからの生きるヒントを視点に自分と重ねて読む。第4時
- ④どの偉人にも偉業を成し遂げるために貫かれた思いや願いがあることに気付くことができるように、「やなせたかし」の読みの視点を生かして並行読書を行い、自分の考えをまとめる活動を位置付ける。第5～6時

- ・「やなせたかし」の伝記を通して偉人の人生像（業績）と人物像（考え方）の両方を捉える読み方とその生き方から学んだことを自分の生き方に生かすという視点から自分の考えをまとめた。そのことによって、並行読書で選んだ伝記を読む際にも、偉人の業績と考え方の両面から、影響を受けたことや今後の生活に生かしていきたいことをまとめた。
- ・児童が興味のある偉人を選択できるように、伝記を分野ごとに分けて、業績を紹介する掲示をした。「やなせたかし」を通して学んだ読み方を基に、並行読書で選んだ本も同じように、業績と考え方から影響を受けたところ、共感できるところ、これからの生き方のヒントを視点に積極的に読む姿が見られた。



付箋を使って読む様子

【第3次 自分の選んだ伝記から学んだことを書いている児童の様子】



【第3次 児童が自分で選んだ伝記から学んだこと】

(3) 成果と課題

○単元を貫く課題の設定

初発の感想を交流した上で、単元を通して学びたいことをもとに単元を貫く大きな課題を設定したことで、「偉人の教えから学び、自分の生きるヒントを考える」という視点を持ち続けながら、児童主体の学習を進めることができた。偉人の教えから影響を受けたところ、共感できるところ、生きるヒントとなるところという視点をはじめにもったことで、業績から学ぶ見方・考え方を働かせることができた。

○筆者の解釈（評価）に迫る読みの視点

偉人の教えから学ぶために、人生像（業績）と人物像（考え方）の両方を関連付けながら読むことで偉業の裏にある思いや努力を知り、自分の生き方に生かしたいところをまとめることができた。また、人生像（業績）と人物像（考え方）の両面を読むという読み方が汎用的な資質・能力として獲得され、他の伝記を読む際にも生かすことができた。

●話合いの焦点化

本時では、段落の順に時系列に沿って児童の考えをまとめていったため、人物像を捉える視点が広範囲に渡った。1時間で全文から人物像を捉え、全体で交流するには時間が足りなかった。個人の考えを全員が表現する（発表する）場を設けることができなかった。

●言葉や表現への着目

本時では、人物像を捉える際にやなせたかしの思いや考え方には触れることはできたものの、本文の言葉や表現のよさへの気づきを十分に深めることができなかった。筆者が用いた言葉や表現のよさや特徴にも思考を巡らせながら人物像を捉えると、さらに筆者の解釈（評価）への理解を深めることができたと考える。

(4) 改善策

①話合いの自律化

人物像を捉える際に、段落ごとに読むのではなく、児童がよりやなせたかしの考え方が表れていると思う部分に焦点化していく。そして、根拠を明らかにしながら叙述を基に焦点化した考えを持ち寄って、グループで話し合ったり、全体で話し合ったりすることで深めていくと、個々の考えを十分に生かすことができる。個々の考えを交流する場を十分に確保し、話合いの中で互いの解釈を深め、自分の考えを再構築できる場を設ける必要があると考える。

②言葉や表現のよさに気付くための手立て

伝記は筆者によって取り上げている出来事も、表現も異なる。伝記には筆者の解釈（評価）が含まれていることに気付かせたい。そこで、可能であれば他の筆者による「やなせたかし」と比較して読んだり、自叙伝と比較して読んだりすると、本教材の筆者である梯久美子さんの表現のよさや特徴に気づき、より筆者の解釈（評価）を深く捉えることができるようになると思う。

